

東京湾再生官民連携フォーラム 令和3年度 第3回企画運営委員会 議事メモ

1. 開催日時 令和4年2月14日(月) 13:30~15:30
2. 開催場所 Zoom 利用と対面との併用による会議
(Zoom 事務局・面着会場:AP 虎ノ門会議室
東京都港区西新橋 1-6-15 NS 虎ノ門ビル(日本酒造虎ノ門ビル)11F)
3. 議事次第
 - 《審議事項》
 - (1)フォーラム令和4年度~令和6年度 中長期事業計画(案)、令和4年度事業計画・予算(案)
 - (2)東京湾再生計画(第三期)に向けてワーキンググループからの政策提案(案)
 - (3)令和4年度通常総会について(案)
 - (4)企画運営委員会委員の選任及び企画運営委員長の選出について
 - (5)PT 新設について
 - 《報告事項》
 - (1)PT活動報告
 - (2)フォーラム令和3年度事業報告(案)について (事務局)
 - (3)その他 CSR-NPO 未来交流会 2022 のご案内
4. 出席者 (敬称略)

來生議長*、中村委員、佐々木委員、古川委員、岡田委員、松井委員、牧野委員、木村委員、竹口委員*、芝原委員、松村代理、松澤代理、川崎代理*、今林代理、渡邊代理、西川代理、田中代理、樋口委員、石塚代理、福島委員、秀平代理、石井委員、二宮委員、山内委員、石川代理、廣川代理、細川(事務局)* 27名出席 (このうち*印が会場にて対面参加)
5. 議事概要
 - 5-1 開会
 - (1)事務局: 出欠および資料の確認
 - (2)開会挨拶(議長): 議論を進める。結構たくさん議案があるのでご協力お願いします。
 - 5-2 議事
 - 《審議事項》
 - (1)フォーラム令和4年度~令和6年度 中長期事業計画(案)、令和4年度事業・計画
予算(案)
 - 【決定事項】
 - フォーラム令和4年度~令和6年度 中長期事業計画(案)、令和4年度事業・計画
予算(案)は承認された。

(事務局)：審議資料1説明

3年間の中期計画合わせて令和4年度の事業計画・予算を(一財)セブンイレブン記念財団へ提出する。令和4年度はフォーラムの設立から10年目にあたる。全体の事業計画の枠組みは、今まで積み重ねてきた枠組みで整理した。

中期計画期間はR4～R6で、第二期の最終年と、第三期の1年目、2年目とにあたる。活動のポイント1～7まで列記している。3番目は、設立10年目にあたり、10年間の歴史について取りまとめ役に立つような冊子を作りたいと提案している。

計画の具体的な実施概要は、(1)閉鎖性海域、その中でも東京湾における官民連携フォーラムという活動が非常に特徴的で他にないユニークさを持った先進的な役割。(2)東京湾の日を設定し、広く周辺3000万人に東京湾の日を意識してもらおう活動。(3)自然文化の直接体験、海へつながることなどを考えながら、上流・下流の交流を図る、活動エリアを意識して情報が行き交う“場”としての役割を果たしていく。さらに東京湾の再生に繋がるように水の循環に沿った形での領域間の市民連携を図る。(4)企業のCSR活動と市民、NPOとの一層の交流を実施する。大学とのパートナーシップ連携に取り組んでいく。さらに小規模実験研究など、PT活動を応援する仕組みを考えたい、などについて計画している。

次に、令和4年度の事業計画及び予算について説明する。

1. 情報の受発信交流(広報)では、東京湾の日のPR活動、Webやメール配信による情報ツールを使って継続的なPR活動の実施、河川周辺域での環境保全活動の方々と連携し、お互いの交流認識を深める活動に取り組む。この10年間の東京湾再生行動計画(第二期)の中での活動・体験などを記録として残し、第三期に役立ててもらおう。あるいは足跡努力を知ってもらおう。
2. 交流・連携活動では、東京湾の日に絡んで川柳・写真等の公募で裾野を広げる、クリーンアップ活動で様々な活動している市民団体と交流を深める。河川をフィールドとした会員と海との結びつき深め、パートナーの創出を目指していく。東京湾をフィールドとして活動している方に対して、表彰方法や称賛方法等、東京の日の活動にも絡ませて検討していく。企業とNPOとのCSR-NPO未来交流会についても実施していきたい。
3. 他団体との連携では、経団連の自然保護協議会あるいは国連生物多様性10年日本委員会などと連携し他活動団体の活動について勉強していきたい。
4. 後援・協賛等では、官民連携フォーラムの後援等を行っていく。
5. PT活動へのサポートでは、事務局としての応援を引き続き進めていきたい。共通の運用課題があれば一緒に考えていく。
6. 相談窓口では、届出文書をはじめ各諸手続きなどの応援。
7. 啓発・人材育成では、PTが活発に活動していただいて人材が育っていくということ、あるいは大学などとの交流の中で若い人との繋がりをつくっていく。
8. 統一テーマでは、「東京湾大感謝祭」の実施に対する応援、10月1日東京湾のPR活動の実施。
9. 政策提案では、PT成果を取りまとめた提案実施を図る。今年度の第三期計画に向けた政策

提案は、このフォローも含めて再生推進会議と連携していく。

令和4年度予算は以下の様である。収入の部は(一財)セブンイレブン記念財団からの助成金として約400万円、寄付金収入を10万円見込む。支出の部は、(一財)セブンイレブン記念財団から頂いた助成金の支出内訳を記載している。寄付金等の収入は、助成対象外への支出に充填する。支出内訳は、使用目的・用途により事務局運営費、事業費の二つに分けている。運営費では事務局員1名の人件費などである。事業費としてCSR-NPO未来交流会、川柳&photoコンテスト実施などを計上している。

【審議経過】

來生議長

3カ年の中期計画案と、それを前提にした来年度の年度計画案とそれを裏付ける予算についてご説明をいただいた。ご質問、ご意見あればどうぞお願いします。

特にご意見等ないようなので、ご承認をいただいたとする。

《審議事項》

(2) 東京湾再生計画(第三期)に向けてワーキンググループからの政策提案(案)

【決定事項】

東京湾再生計画(第三期)に向けての政策提案(案)は、各委員からの意見、指摘を踏まえ修正等の実施を図ることで、最終的には議長に一任する。と承認された。

(事務局)：審議資料2説明

ワーキンググループ会議(WG会議)は企画運営委員会で設立が承認され、第三期へ向けて政策提案を取りまとめる作業を行った。今回の企画運営委員会での最終的な審議を経て、東京湾再生推進会議への提出を予定している。WG会議は、都合5回開催し、再生推進会議海域分科会幹事などに加え、海上保安庁、水管理・国土保全局下水道部からも参加いただいた。企画運営委員有識者委員からは、來生委員長ほか、木村、古川委員2名の参画をいただいた。

第1章は第二期の活動での成果、第2章が東京湾10年前と比べた変化、第3章で第三期計画へ向けての基本的な視線と姿勢、について整理している。第4章で第三期計画に向けたフォーラムからの提案をまとめている。

中でも4-2で「東京は約3000万人の心を豊かにする東京湾を創出します」の言葉を、第三期目標のサブタイトルに入れる提案となった。4-3 背後人口3000万人とのつながりの強化の点では、「循環」、「上流下流」というキーワードを示した。4-4で段階的計画は、共通の目標については、共通認識を前提にして、進捗レベルに合わせた段階的な計画の提案。4-5 連携のキャッチボールの促進は、官民・官官・民同士のキャッチボールを促すための仕組み、といった提案を示した。

5.については、東京湾再生官民連携フォーラムの努力、目標の考えをまとめている。最後に文書責任について記載している。

【審議経過】來生議長

WG会議メンバーをはじめ内部での検討を重ね、委員会の皆様にも予め目を通していただき、ご意見等を伺っていると認識している。ご質問、ご意見改めてのご指摘をお願いします。

古川委員

3点ほどある。一点目はp13 4.3.1の「東京湾庁のような総合的な施策がない・・・」に関連して、「空間計画」の位置づけをお願いする。空間計画は、現在、実際の法制度に位置付けられていない。そこで、p13、18行目に「東京湾再生の位置付けの確立に努め・・・」の箇所に、「海洋空間計画としてきちんと再生の利用面の調整が図られる」と言った言葉を挿入していただくことをご検討いただきたい。

次に、p16 4.5 ③最後の行のところ書いてあるが、場所だけでは、材料がそこに広げられるということだけに終わりはしないか、「場所・体制」として記載してほしい。

最後に p.18 で「この提案の責任は議長にあり事務局にあります」と記載しているが、「フォーラム全体としての総意」として提案するという趣旨の言葉を挿入してほしい。

來生議長

3点のご指摘をいただいたが、今この段階で事務局からは何か、対応はあるか？

事務局

最後のご指摘「フォーラムの総意」という言葉を入れるのは大賛成。ご承認いただければ対応する。他、2点に関しては、委員会のご意見がなければ事務局では、取り込む検討を進める。

來生議長

今の対応方針で、最終的にはお時間いただいて、検討させていただくことで処理する。古川委員、それでよろしいか

古川委員

よろしく願います。

來生議長

他に何かご指摘ご質問等ありますか。

木村委員

古川委員のご意見に賛成する。それ以外のところでご提案したい。

第1点目は、次年度に第三期の計画が作成され、第二期計画の終わりで、「PTを一旦全部解散する」ことを提案したい。第三期スタートにあたって、計画の発表の際には、東京湾再生推進会議の各メンバーが、それぞれ何をするのかと言ったところまで含めて発表を聞かせていただければありがたいなと思っている。

第2点目は、第三期計画に合わせて、あらたにPTを発足する。

第3点目は、大感謝祭の実施にあたっては、自治体が主体となり実施の検討をお願いする。

今まで大感謝祭開催にご賛同いただけてると思うが、「常に、活動が多くの方々に、伝わってるのか、それは行動につながってるのか」と言ったことも含めて自己反省しながら継続している。今までの課題を含めて、検討し取り組んできて、やっぱり多くの方に伝えようとする努力は、今後も絶対に必要と思う。開催地の横浜市さんには、本当に心から感謝しお礼申し上げたいが、なかなか東京、千葉方面の方々に「伝える」、と言った意味では弱いところがある。

第三期期の感謝祭は、神奈川、東京、千葉、さいたまが、それぞれに主体となり、主催で行って

いただき、それを我々が必ずお手伝いする。是非そういう方向でご検討いただければと思う。以上
來生議長

重要な問題提起・ご提案だと認識する。木村委員のご提案は、フォーラムとしてまさに次の10年に向けて第二期の再生推進会議の経過期間が終わることを契機に、「どうあるべきか」という議論で、まずは事務局とよく相談をして、処理をしたいと思うが木村委員 いかがだろうか。

木村委員

よろしいです。それで結構です。

來生議長 他にご発言は？

中村委員

短期間にこれだけの議論をされて文書にまとめられた関係の方々に感謝する。私も方向性としては、この10年で大きな社会環境的な変化があったということ踏まえた計画になっていて大変結構だなと思う。大きな方向性として賛同する。

また、先ほど古川委員からのフォーラムの総意については、企画運営委員会としてまとめているという意味でもあると思う。私個人の意見につきましては、もうすでに意見をお送りしているので、それを参考にして文言の修正や事実の確認をしていただければと思う。この後、最終的にはこれを発表されるまでのスケジュールを示してほしい。

來生議長

事務局の方から今後のスケジュールについて、お願いする。

事務局

今週いっぱいぐらいに、本日までの企画運営委員会のご意見、ご指摘の検討・取り込みを行い、全体の文章の修正を行う。その後、今月いっぱいぐらいには、海上保安庁参事官・東京湾再生推進会議の幹事長宛に政策提案の提出をしていきたい。

早めに提案を受け取りたいという官側のご要望もあり、文章を確定して提出をすると言ったところは概ね3月のはじめぐらいまでと考えている。

中村委員

2週間ぐらいしか時間がないということで意見を出した後、どうなるか、もう1回キャッチボールをする時間的余裕はないと考えてよいか？

事務局

残念ながら時間的余裕がないというのが実態。期待としては、「受け取った提案を一体どんな風に取り扱うのか」という「政策提案の中身の実施・実現」のところでのキャッチボールが引き続き行われることを期待している。

中村委員 理解した。

來生議長

第三期計画に向けての再生推進会議側の検討が、年度が改まってから本格的に行われていくプロセスがあるので必要ならそういうプロセスに情報を提供していくことも可能ではないかと思っているが、当面は事務局からの説明があった形で処理をさせていただく。他にご意見は？

岡田委員

漠然としたご質問になるが、今回ご説明していただいた第三期計画の目指す姿というのを理解したところだが、「再生」ということがマッチしないステージに入ってる印象を受ける。やはりそれでも「再生」という言葉は使って行った方が良いのか？

來生議長

なかなか根本的なご質問だと思うが、事務局からお願いします。

事務局

そもその対象は、「東京湾再生行動計画(第三期)」と称されるもの。東京湾再生行動計画は行政側が行政の政策文書として取りまとめる計画なので、取りまとめる行政の皆様が「再生という言葉をやめましょう」という判断で別のタイトルに名前を変えることは十分考えられる。

今のところ、再生計画の第三期計画への提案ということでまとめているという意味で「再生」という言葉を使わせて頂いている。提案提出後、行政が再生計画のタイトルとして「第三期には、こういうタイトルに変えましょう」と提案を利用するなど、いろんな可能性・チャンスはある。こういった議論を引き続き活発に行っていきたい。

岡田委員

私もさすがに東京湾再生行動計画というタイトルまで変えるというのは、なかなか難しいと思っているが、計画や提案の文章中、「東京湾を再生するために」というような見出し題や、本文中の記述の動詞の部分で、「再生する」という結びの表現が多く、何か工夫できる余地はまだあるという感じがしている。

來生議長

提案という中で正面切って「再生」という概念が、今どうあるべきかという大議論をしようとする、何ヶ月かかけて議論する必要がある。文章表現の中で工夫ができるかどうか、そこはもう一度チェックをさせていただく。他にご意見は？

松村代理(海上保安庁)

木村委員からのご発言「第三期の行動計画発表の場を設けていただきたい」は、現在、東京湾再生推進会議において、今年度末に向けて第三期の行動計画の骨子案作成作業を行っている。

来年度以降のスケジュールとして 11 月頃に、次期行動計画をまとめてフォーラムさんへの照会期間を設けたいと考えている。その時に、第三期の行動計画についてご紹介する機会を設けられるのではないかと考えているので、こちらも引き続き検討していきたいと思う。またフォーラム事務局の方から政策提案を今月末に早くご提出いただけるということで大変ありがたく思っている。以上

來生議長

来年度 11 月ぐらいを目処にということで、発表を聞かせていただく機会ということを考えているので、大変ありがたいと思っている。予定した時間をかなりオーバーしているので、最後にもう一度、発言があればいただくことにして、とりあえず先に進める。

それでは、令和 4 年度の通常総会について事務局から説明をお願いします。

《審議事項》

(3) 令和4年度通常総会について(案)

【決定事項】

令和4年度のフォーラム通常総会の開催について承認された。

(事務局)：審議資料3説明

令和4年度のフォーラムの総会の開催について、開催のやり方と日時についてご提案させて頂く。令和4年の10月1日、10時半から12時を予定、ZOOMの利用によるオンラインの開催としている。

【審議経過】

來生議長

特にご意見等ないので、ご承認をいただいたとする。

《審議事項》

(4) 企画運営委員会委員の選任及び企画運営委員長の選出について

【決定事項】

企画運営委員会委員の選任及び企画運営委員長の選出は承認された。

(事務局)：審議資料4説明

官民連携フォーラムの設置要綱では、企画委員会の委員任期は2年とされている。前回の改選から2年が経過し、企画委員会において新たな任期2年の企画運営委員を選出するタイミングになった。また、企画運営委員会の委員長は新たな選出された委員の互選ということになっているので委員長の選出を行いたい。

資料の4の裏側に本日の委員のメンバー表を掲載しているが、このメンバーで次の2年間も是非お願いしたい。今までの経緯を十分ご存知の委員の方に、次の10年に対してのいろいろな議論というものを引き続き継続して行っていただきたい。

【審議経過】

來生議長 現状のままお願いしたいというご提案。ご質問があればどうぞ。特にご意見等ないので、ご承認をいただいたということとする。また、異論がないので、引き続き議長の來生が委員長の仕事をさせていただく。

《審議事項》

(5) PT 新設について

【決定事項】

新設 PT は承認された。

【審議経過】

來生議長

PT の新設について事務局から説明、続いて本日会場にいらしていただいた申請者・竹山様か

ら説明をお願いします。

(事務局) PT 新設ガイドライン説明 審議資料 5、5-1 説明

PT 新設の要件について、「フォーラムの趣旨に沿った活動になってるかどうか」などから始まり、「排他性の禁止」・「政治宗教への利用の禁止」・「官と民の連携の協力」という趣旨の理解を得るところが新設申請時の事前確認点になる。公序良俗に反しないかを含めて事務局で形式的なチェック、事前照会を行い、企画運営委員会で審議していただくところに至った。審議資料5、5-1 については、申請者より説明をお願いします。

申請者 竹山氏

羽田空港と川崎市殿町地区を結ぶ多摩川スカイブリッジが、今年の3月12日に開通する。羽田の玄関口とも言われ羽田空港と川崎側に広がる多摩川河口干潟のアクセスが容易となる。

多摩川の河口干潟は、大都市近郊に位置しながらも、よし原と泥質干潟からなる江戸前干潟の原風景で貴重な環境が形成されている。多摩川河口干潟環境の評価そして保全活動とその重要性のPRをすること、さらにワイズユース視点から地域住民、市民が楽しめる干潟環境を整備し、観察会、ESD活動、企業CSR活動と結びつけてPTを立ち上げたい。

資料 5-1 多摩川河口生物多様性研究会は、多摩川の河口干潟の生物多様性に関する調査研究を行って、その保全と活用に関する情報提供を行うことを目的としている。専門の分野の先生方と一緒に調査研究を行って学生、地域住民の方等と一緒に情報を公開しながら活動していく研究会を目指している。新設PTをバックアップしてくれる。

來生議長

新設PTの希望ということで、ご質問、意見をお願いします。

木村委員

賛成。関係者との相談しながら進められた方が宜しいかと思う。京浜河川事務所、野鳥の会、とんぼの会の方々とやり取りをする話になろうかと思う。また空間指定(空港設置に伴う制限表面)がされているとこなので、そこ(空港)とのやり取りの話も出てこようかと思う。

申請者 竹山氏

はいありがとうございます。是非、参考にさせていただきながら進めていきたい

古川委員

積極的なプロジェクトチームを立ち上げのご提案、大歓迎したいと思う。地域の自治体の方々と連携しながら地域の住民の方が、例えば大田区の環境マイスターの方が自力で色々な調査を工夫しながら実施されている。既存の活動をしている人たちがうまくこういう活動にも参加できるようにして観察会まで1ヶ月のスケジュール案が示されているが、是非幅広くに宣伝していただいて、色々な方と協働できる仕組みに発展していただけるということを大いに期待したいと思う。

來生議長

特に反対はない、新設のPT承認がなされたというふうに整理をさせて頂く。

以上で審議事項が終わる。続いて報告事項でPTの活動状況のご報告をお願いします。ひととおり説明頂いて最後に質疑に質問を受けたいと思う。

《報告事項》**(1) PT活動報告 令和3年度の活動計画について(各PT長)****モニタリング推進 PT (古川 PT 長):報告資料 1-1 説明**

令和3年度東京湾環境一斉調査を東京湾再生推進会議、9 都県市、さらに湾岸自治体等と一緒に取りまとめている。現在、印刷中の工程。モニタリングプロジェクトチーム主催の江戸前勉強会等を実施し東京湾の再生議論の結果を掲載している。近日中に出来上がるので是非その時には手に取って見ていただければと思う。来年度以降も東京湾環境一斉調査について、取り組み、各所と連携を取りながら継続して活動して参りたいと考えている。

生き物生息場づくり PT(佐々木 PT 長途中退席/事務局代理):資料 1-2 説明

生き物生息場づくり PT 活動結果報告と令和 4 年度の活動計画、資料のご紹介をする。活動報告については、現場の調査の実施、その評価について議論をして専門の海の生物の専門の方なども含めて色々議論を実施した。現場の活動の様子 2021 年 12 月 28 日に茜浜沖においてマコガレイ産卵場調査を実施した。2022 年度も東京湾大感謝祭への出展、マコガレイ産卵場調査、マコガレイ釣り調査を実施する予定。さらに、茜浜の見学会や勉強会を企画したいと考えている。

指標活用 PT (岡田 PT 長):資料 1-3 説明

指標 PT では、市民データワーキングとデータ整理・評価ワーキングで活動を実施している。市民データワーキングは令和 3 年度アンケート調査を実施して結果を整理している。

令和 4 年度も引き続いて、例年通りアンケート調査を実施予定、データ整理・評価ワーキングでは、令和 3 年度 10 月 26 日にキックオフをして最終報告に向けた指標の整理を行っている。毎月 1 回ウェブ会議を開催して、「中間評価」の取りまとめで抽出された課題を整理して、「最終評価」に向けた法整備方針を議論している。来年度に関しては今年度に引き続いて最終報告に向けた資料の整理をしていく予定。

東京湾大感謝祭 PT(木村 PT 長)/離席のため事務局代理報告):資料 1-4 説明

2021 年度の大感謝祭の開催報告は、2021 年の 10 月 1 日から 31 日間オンラインにより開催した。関東地方整備局、横浜市、みなと総合研究財団、良くするために行動する会、横浜港ポート天国ボート天国推進連絡協議会などの共催。31 日間でユーザー数として 5000 名、ページビューとして 13,000、ビュー視聴回数として特別企画トークショー2000 回。スペシャルトーク「テーマ:東京湾の地域循環共生圏ー東京湾再生行動計画第三期に向けてー」環境省 環境事務次官 中井徳太郎さま 国土交通省 大臣官房技術総括審議官 高田昌行さまで行われた。

木村 PT 長(引き続き説明)

令和 4 年度の計画は、10 月 15 日、16 日(土、日)、昨年と同様にコロナの状況があるのでオンラインと実開催の併用で準備を進める予定にしている。会場は大さん橋ホールで、なるべく市民活動、実際に活動されてる色々なセクターによるポスター展示も含めて有意義なものにしていきたい。榊さまに関して、「アンバサダーと大感謝祭出演の継続については、4 月大学へ行くまで待ってください」ということで、個人的には継続したいというような意向でした。

江戸前ブランド育成 PT(牧野 PT 長 /事務局が代理で報告):資料 1-5 説明

私共の活動方針としては、まず東京湾の海の幸のことを知っていただき食べていただくことで食卓の東京湾のつながりを取り戻し、それがライフスタイルの変化につながるということで活動している。これまで各 PT のメンバーは、主にバーチャルの活動実施してきた。

今年度は大感謝祭バーチャルのお料理教室を大規模に実施し、体験していただく活動を実施した。今後の方針は、コロナが治まれば、イベントを再開していきたいと思う。2年間で蓄積されたオンラインの資料は PT としての資産になり、またフォーラムとしての資産でもあると思う。特に環境教育と食育・人材育成はとても重要なので、オンラインのデジタルコンテンツの共有によって他の PT との横断的な協力も進めたい。さらに教育者向けの食育プログラム・デジタルコンテンツを作ることを検討している。

東京湾パブリック・アクセス方策検討 PT(竹口 PT 長)

報告資料2 令和3年度フォーラム事業報告書(案) 17 ページ記載している。すでに政策提案を実施し、そのフィードバックされたものがあつたらそれに対応しようというスタンスでいる。提案に見合ったような事柄が実践されたようだという情報を頂き、早速調べて、その成果があがってようならばまた報告をさせていく。

東京湾での海水浴復活の方策検討 PT (関口 PT 長/事務局代理)

報告資料2 令和3年度フォーラム事業報告書(案) 17 ページ記載に海水浴 PT の活動のまとめがある。ご確認をお願いします。コロナ禍ではあるが、「里うみ祭り」を実施し新たな海水浴実施に向けての努力、働きかけなどを含めて行なっている。

東京湾の窓PT:(芝原 PT 長)資料 1-8 説明

昨年に続いて、「みらいの港づくり助成」をいただいている。この中に対応した環境教育プログラムの学び合いと実践ということで、「施設として、利用する方に向けて、どういう工夫をして施設を運営できるか」とお互いに知り合う学び合うということで、研修会を行なっている。昨年発足した Facebook グループページの活動は継続して、375 名が登録している状況。11 月に三番瀬の環境学習館で研修会実施、12 月は水元葛飾区の水元かわせみの里、オンラインで研修会、1 月には行徳鳥獣保護区での現場での研修会実施。3 月に発表予定にしている。来年度の活動計画は、コロナにより実地で行うのが制限され、改めて PT メンバーと相談して来年度の活動を進めていく。

來生議長

浅瀬再生実験 PT は、特に説明はなしです。ご質問をお願いします。特にないようなので次の報告をお願いします。

《報告事項》**(2)フォーラム令和3年度事業報告(案)**

事務局 報告資料2説明

資料2の東京湾再生官民連携フォーラム令和3年度事業報告案は、2月までの活動実績をまとめた暫定案になっている。正式な事業報告のご審議は次回、新年度の企画運営委員会で議論していただく。本日は時間がないので、会議終了後にお目を通していただきたい。

來生議長

東京湾再生計画の第三期に向けてついて、大切な機会なので、ここで再度何人かの方にご発言をいただこうと思うが、よろしいか、特にご発言がなければ最後の処理は事務局と議長に一任していただくということで処理をさせていただきたいと思う。

《報告事項》

(3)その他

事務局

今までの活動を冊子として、まとめ記録として残す予定で、令和4年度その冊子づくりの活動始める。開始にあたり、アイデアを議論する企画議論を一回、zoomにより4月か5月ぐらい開催予定です。企画運営委員の皆さんに参加協力ボランティアを募りたい。

CSR-NPO 未来交流会を3月16に開催予定で進めている。是非ご参加ください。

以上、一つはボランティアの募集、一つはイベントのご紹介。

5-3 閉会

來生議長

本日は、予定時間を15分ほど超過、長時間熱心なご議論をどうもありがとうございました。これで本日の企画運営委員会を終了する。